

安全安心

かしわざきえきまえ

柏崎駅前地区

(新潟県柏崎市)

- 計画期間 平成21年度～平成24年度
- 面積 150ha
- 交付対象事業費 424百万円
- 市人口 84,671人 (地区内人口 4,847人)

ポイント

中越沖地震からの復興
—— 柏崎駅周辺のまちなか再生 ——

地区概要

柏崎駅を中心とした市街地に様々な都市機能を集積し、コンパクトなまちづくりを進め、人が賑わい、集う、まちなかの活力の再生を図る。

目標

震災復興「さらなる未来へ」の推進と、誰からも愛され住み続けたいまち「好きです輝く柏崎」の実現

- ◇集約型都市づくりでまちの活力を再生する。
- ◇柏崎の魅力を活かしながら、中越沖地震からの復興を実現する。
- ◇防災体制の強化や防災拠点整備により、安全安心のまちづくりを推進する。

指標

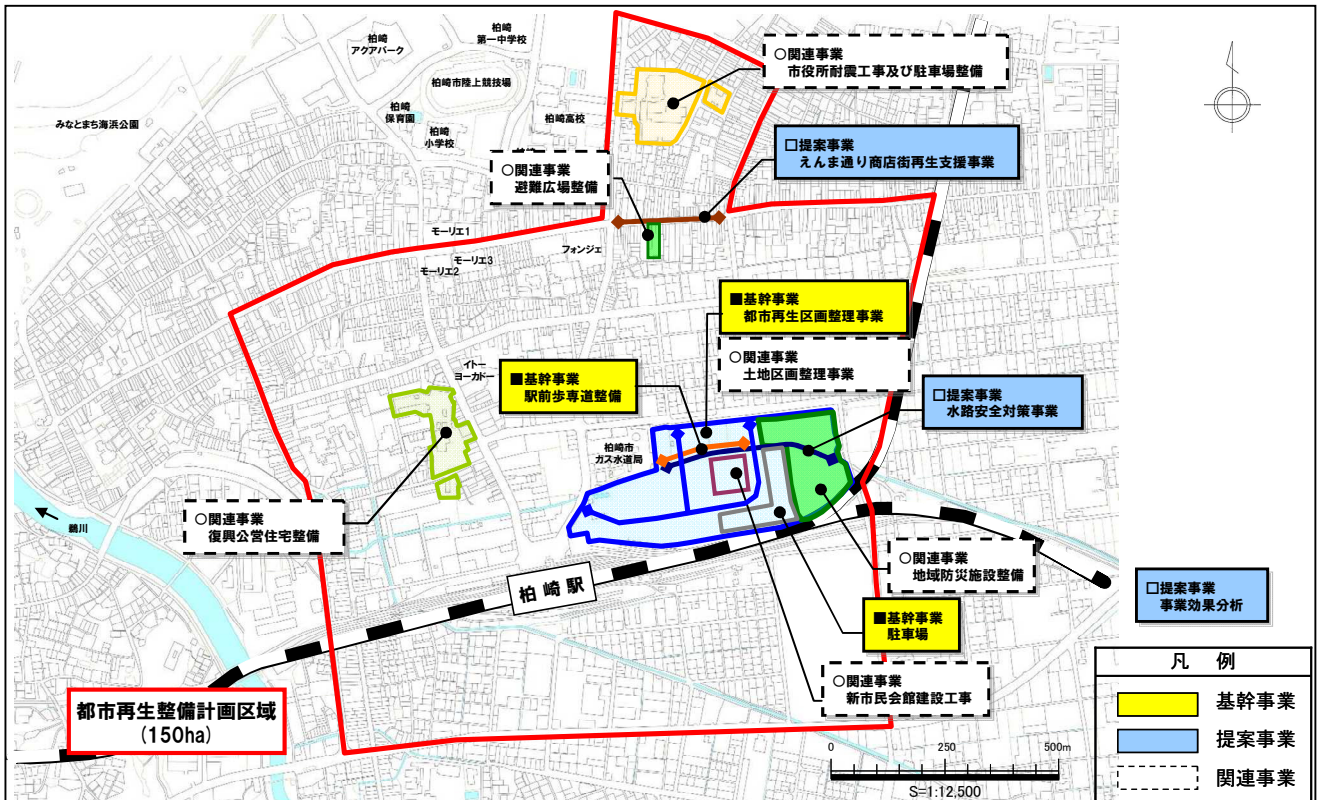
新市民会館の利用者増や市街地の歩行者の増加をまちなか再生の指標とした。また、防災拠点施設整備により、防災意識の高い市民の組織化を促進する。

指標	従前値	実績値
新市民会館利用者数	99,263人/年 (H18) →	158,961人/年 (H25)
自主防災組織数	103地区 (H19) →	304地区 (H24)
歩行者交通量	2,822人/日 (H18) →	1,966人/日 (H24)

事業内容

基幹事業 (385 百万円) → 駐車場 12,000㎡、駅前歩行者専用道路 (幅員 6m、4m 延長 180m)、都市再生区画整理事業 (11.6ha)

提案事業 (39 百万円) → 水路安全対策事業 200m、えんま通り商店街再生支援事業、事業効果分析



地区の現況と課題

駅前地区の大規模工場跡地の活用

柏崎駅周辺の大規模工場跡地を有効に活用した開発・整備が、市の大きな課題となっている。市の総合計画や震災復興計画により、公共公益機能と併せ、商業業務、居住機能など利便性・快適性が高い都市空間づくりの方針が出され、土地区画整理事業による駅前地区の一体的整備に着手している。

えんま通り商店街

中越沖地震により中心市街地の商店街や住宅が大きな被害を受け、特にえんま通り商店街では多くの家屋商店が全壊など大きな被害を受けた。商店主も高齢者が多く、住宅も混在している中①震災からの復興、②地域のまちづくり、③商店街の復興・再生を目指していく。



整備が完了した柏崎駅前
土地区画整理事業地の状況

提案事業の特徴

水路安全対策事業

震災等の被害により安全性が危惧されるとともに、居住地区内や公園内を分断する水路について、安全対策を実施する。

北側駐車場から新市民会館へ入館する来館者や荷物搬入が安全にできるよう函渠工を整備する。

えんま通り商店街活性化支援事業

震災の被害を受けた商店街について、地域住民による再生に向けた取り組みを支援すべく、研修、ワークショップ等を開催する。



中越沖地震直後のえんま通り商店街

計画策定プロセス

柏崎市まちなか活性化方策検討調査

平成18年度電源地域振興指導事業の一環として実施した柏崎市まちなか活性化方策検討調査の中で柏崎駅周辺中心市街地整備の手法を検討した。

柏崎市第四次総合計画（前期基本計画）

平成19年度～平成23年度の前期基本計画の重点プロジェクトの中のまちなか再生プロジェクトで柏崎駅周辺には、広大な工場跡地が存在していることから、これらを再開発し、公共公益機能、商業機能、業務機能、文化機能、居住機能などの複合機能を配置して、賑わいのある空間を創出することとした。



事業完了後のえんま通り商店街



震災からの復興を目指すえんま通り復興協議会